



平成30年青森県卓越技能者表彰を頂戴しました。今後も自動車整備士として精進いたします。

最近当社に特に問い合わせの多い「ATF」についての話です！
 ネットなどで諸説ありますが、当社では「ATF交換」について以下のように考えています。
 「ATF交換」していますか！？
 当社から「ATF交換」についてのご提案です！

Bosch Car Service
(有) 須藤チャイアント商会

黒石市追子野木1-67-4 営業時間 8:00~17:00
 ☎0172-52-2042 (月曜~土曜)

お客様からのお問い合わせお待ちしております

最近、当社への問い合わせが特に多くなってきているものがATF(オートマチック・トランスミッション・フルード)の交換です。又々の「チャイアント通信4」では、ATF交換についてちょっと書いてみようと思えます。そもそも、ATFって何でしょう？

最近、当社への問い合わせが特に多くなってきているものがATF(オートマチック・トランスミッション・フルード)の交換です。又々の「チャイアント通信4」では、ATF交換についてちょっと書いてみようと思えます。そもそも、ATFって何でしょう？

トルクの増大や動力伝達を行うトルクコンバーター、蟻の巣のような細かく複雑な油路で構成されているバルブボディ、動力を伝える湿式多版クラッチ、油路の切り替えや油圧の制御を行うバルブ類、構成要素の締結や解放を行うブレーキ類やクラッチ類などなど・・・

これらの作動や潤滑をATFが行うのです。さて、ここからが本題です！ATFは本当に交換しなくてもよいのでしょうか？

ネットなどでは諸説ありますが、当社では「交換した方が良い」と考えています。なぜなら、ATFには防錆剤、消泡剤、洗浄剤、分散剤、耐摩耗性添加剤、抗酸化化合物、界面活性剤、低温流量改善剤、高温増粘剤、ガスケット保護材、石油系染料などを組み合わせたものが含まれているからです。

これらはやはり年数や使用状態により劣化していきます。また、熱負荷による影響も大きく、油温が120℃を超えると、その性能は著しく低下します。オーバーヒートを起こした車輪はATF交換が必要な理由もここにあります。では、なぜATF交換はしなくてよいと言われるのでしょうか？

うか？

交換しなくてもよいと言われるのは、大きく二つの理由があると思います。

まず一つの理由は、成分的にある程度ATFが劣化していても、ATF本体の作動に大きな問題がないとの考え方だと思えます。

確かにATFは、エンジンオイルのように、フローバイパス(燃焼行程で高圧となった燃焼ガスや未燃焼の混合気がピストンリングのシール能力を超えて隙間からクランクケースに漏れ出したもの)の混入もありませんし、ギヤオイルのように極端な極圧が掛かることも少なく、これらの油脂ほど急速に酸化やせん断による劣化をすることは無いと思われ

ます。実際にATFの劣化だけが原因で大きなトラブルが発生した事例は多くないと思います。もちろん、先程述べたオーバーヒートなどの外的要因や、他の部位に原因があるものは除きます。でも、劣化しているならば、性能的には100点満点ではないですよね？

要は40点、50点でも動いているのであればATFが劣化しているもATF本体は問題ないとする考え方ではないかと。オーナー様の考え方にもよりますが、40点、50点でも動いて

いるから問題ないとするのか、80点、90点のフィーリングを目指すのかでメンテナンスの方法は変わってきます。

これはなにもATFだけの話ではなく、車検を含め車のメンテナンス全てに言えることだと思えます。

80点、90点のフィーリングを目指すのであれば、やはりATF交換を行った方が良いと思えます。

もう一つの理由としては、ATF交換をする際のリスクの問題だと思えます。よく走行距離が多い車輦で、ATF交換の履歴が無いものや不明なものは交換できない、またはしない方が良いと言われるかもしれませんが、なぜでしょうか？

一般的には、クラッチフェーシングが摩耗しているATF中に混入したクラッチフェーシングの摩耗粉の摩擦力でクラッチの締結を行っているので新しいATFにしたらクラッチが滑るとか、新しいATFの洗浄分散性能によりバルブボディ内のスラッジが剥けてつまるとか、オイルパン底部に沈殿したタストが新しいATF注入時に舞いあがってライン内に侵入してつまるとか言われています。

でも、これってATFを交換しても交換しなくても、いずれは壊れると言っていることですよ！

クラッチフェーシングの摩耗はATF本体の状態としては末期ですし、スラッジやタストが生成されているのであれば、内部での性能の劣化が始まっていると言ったことですよ。

また、スラッジやタストをつまらせてしまうのは現状の把握ができずにジャッキングミスしたり、誤った方法で交換を行ってしまうからなのです。

診断や検査により正確に現状をジャッキングすること、正しい方法でちゃんと交換してあげることでできるのであれば、やはりATF交換を行った方が良いと思えます。

もちろんATF交換のリスクやベネフィットは理解していただかなければいけません。

ATF交換をするかしないかは、人生で考えてみるとわかりやすいですが、手術や治療を行い、障害を取り除いて生活するのか、持病があっても手術や治療をすることなく衰えはあってもそれなりに無理せず生活するのかだと思えます。

もちろん手術や治療をすること、しないことのリスクやベネフィットも考慮してのことですよ。でも、もしも手術や治療を行うのなら、できるだけしっかりしたお

医者様を選んで、納得いくまでご相談されたうえで手術や治療を行うのではないのでしょうか？

ATFの交換も全く一緒です。

愛車を長く良い状態で乗りたいのであれば、当社ではATF交換をお勧めいたします。

また、使用するATFは、当社が絶対的に信頼する「ルプテック・シャパン」をお勧めしております。

「ルプテック・シャパン」は当社のイチオシであり、お客様の評判も上々です！(お客様の要望があれば、純正ATFなどの指定ATFでの交換も承ります)

※当社でのATF交換はあくまでもフィーリング、ドライバビリティの向上と、故障の予防が主目的です。ATFの色をきれいにするではありません。状態や交換方法などにより、交換後のATFが新油の色になるものではありませんので予めご了承ください。